

彩の歳時記

平成二十三年 十一月

小倉山 峰のもみぢ葉 心あらば 今ひとたびの みゆき待たなむ

藤原忠平【830～949】

「小倉山の峰の紅葉よ。もしも心があるならば、このまま散らずに、もう一度、天皇がお出でになるのを待っていておくれ」

平安の昔から貴族たちの別荘地として愛された小倉山。藤原定家【1162～1241】は此の地で『小倉百人一首』を編んだと言われます。この辺りの晩秋の風情は格別で、小倉山から嵐山にかけて紅葉が照り映え、あたかも錦絵のよう。一般に草木が色づくことを「もみぢ」と言い、紅葉はそれに由来します。「紅葉Ⅱかえで」ではなく「かえで」はカエルの手に似ている事に由来、その色の美しさゆえ、紅葉(こうよう)と言えは「かえで」。温暖化の影響で、作今は十一月から十二月にかけてが、最も美しい時期と言えましょう。



十一月の異称

霜月 霜が降る月に由来。晩秋から初冬にかけて、移動性高気圧に覆われた時春のような穏やかで暖かい「小春日和」と言われる日がある。紅葉狩りに最適な時期。

十一月の暦

一日 炉開き(ろびらき)

茶家では、旧暦十月(現在はこの日か、一の亥(い)の日)に風炉(ふる)を閉じ、炉を開く。初夏に摘んで寝かせた新茶を初めて使う「口切」が行われるため「茶人の正月」犬の日 ペットフード工業組合などが1987年に制定。「ワンワンワン」に因む。

現在、日本のペット所有率は45% (犬は18%・魚類15%・猫11%)



二日 酉(と)の市(一)の酉

「この年三の酉までありて、中一日はつぶれしかど、前後の上天氣に大鳥神社の賑わいすさまじく。」と、樋口一葉の名作「たけくらべ」にある浅草鷲神社が有名で商売繁盛の熊手を求めて多くの参拝客で賑う。三の酉まである年は火事が多いといわれるが、火事より大きな災害に見舞われた年を想い、家内安全を願いたい



三日



(国民の休日) 皇居で文化勲章授与式が催行され、作家・丸谷才一氏・俳優・大滝秀治氏に授与される。各地で、文化・芸術に関する催しが、学校などで文化祭が多く開催される。

八日



立冬【二十四節気】この日から立春の前日までが暦の冬。朝・夕に空気の冷たさを感じ始める頃。

十五日

七五三・着物の日

1681年のこの日、館林城主、徳川徳松の健康を祈って始まったとされる説が有力。男子は五歳、女子は三歳と七歳の成長を祝って神社・寺などに詣(もう)でたことが始まり。男子の袴儀(はかまぎ)、女子の帯祝など着物に由来する年中行事なので「着物の日」に制定されている。



十四日

二の酉

二十三日

小雪【二十四節気】

「雪はまだ大ならず」の意に由来。寒さは、まだ、序の口。

一葉忌

明治を代表する女流作家・樋口一葉【1872～1896】の忌日。代表作に「たけくらべ」「にぎりえ」「十三夜」等。この日、台東区竜泉(三ノ輪駅)の「一葉記念館」が無料公開され記念公演や朗読が行われる。



勤労感謝の日(国民の休日)

もともとは新嘗祭。その年の新米の収穫を祝い神に捧げる飛鳥時代から続く宮中祭祀(きゅうちゅうさいし)。天皇陛下自ら栽培なさった新穀を天に供えら続(つ)く宮中祭祀(きゅうちゅうさいし)。天皇陛下自ら栽培なさった新穀を天に供えら続(つ)く宮中祭祀(きゅうちゅうさいし)。

二十六日

三の酉

自らも食される。26

十一月の歌

もみぢ

文部省唱歌

定番「秋の夕日に・・」ではないもう一つの「もみぢ」



あかい あかい もみぢの葉 もみぢの葉つばはきれいだな

パツと広げた赤ちゃんの(お)おててのよう(で) 可愛いな

